

令和8年 第3回総務経済常任委員会会議録

令和8年2月20日 議員控室

○事 件

所管事務調査

役場新庁舎等建設事業について

○出席委員（7名）

委員長 牧 野 仁 君
黒 島 竹 満 君
三 澤 公 雄 君
水 野 博 美 君

副委員長 安 藤 辰 行 君
横 田 喜世志 君
赤 井 睦 美 君

○欠席委員（1名）

副議長 宮 本 雅 晴 君

○出席委員外議員（4名）

関 口 正 博 君
議長 大久保 建 一 君

小 西 雄 一 君
寺 田 広 樹 君

○出席説明員（2名）

株式会社 二本柳設計事務所 代表取締役 二本柳 慶 一 氏
株式会社 二本柳設計事務所 川 本 氏

○出席事務局職員

事務局長 野 口 義 人 君

事務局係長 千 代 貴 大 君

◎ 開会・委員長挨拶

○委員長（牧野 仁君） 早速ですけれども、第3回総務経済常任委員会を始めます。委員長挨拶を割愛させていただきます、今日の定足数出席を認めます。

よって、ただいまから総務常任委員会を開催いたします。

今日、宮本委員につきましては欠席する旨の届け出がございますので、ご報告いたします。

【二本柳設計事務所入室】

◎ 報告事項

○委員長（牧野 仁君） はじめに、本日の会議については、今後町が発注する、八雲町役場庁舎等建設事業の委託業務や工事に対しての影響が懸念されることから、公正な手続きを守るため、秘密会としております。

本日の委員会につきましては、前回の会議で八雲町役場庁舎等建設工事について、全員協議会であれば意見集約よりできないが、常任委員会であれば正式に調査や町側へ必要な提案ができることなどから、最終的に2月16日に開催された全員協議会で議員の承認を取り、急ぎよ動き出し、本日会議を開催した状況でございます。

目的は、あくまでも建設工事の一般競争入札が2回にわたって不調に終わった要因を究明し、次回の建設工事において同じことが起こらないための議会としての調査事務でありますことをご承知のほど、よろしく願いいたします。

また、先の全員協議会で最終確認された、これまでの議論を踏まえて逆戻りしないこと及び3月定例会での基本・実施設計委託が上程予定で、そこは間違いなく意思統一されたことを前提に進めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

直ちに協議事項に入ります。

それでは、これから役場新築工事実施設計施工業者の株式会社二本柳慶一建築研究所、代表取締役 二本柳慶一さんを招致しての建設工事入札不調に関する聞き取りを始めます。

はじめに、本日急な連絡にも関わらず二本柳さんには、ご出席をいただき誠にありがとうございます。

早速ですが、八雲町役場庁舎等建設工事の2回目の一般競争入札も不調に終わった結果ですが、町側からの説明を受けた中で、当初見込みより建設主体工事で約9億円の差額が発生し、内容としては鉄骨調達価格が大きな要因であることで報告されたところであります。

議会としては、多額な事業費であり、住民説明会を開くなど問題として捉えており、入札不調の原因を確認するために、関係者として施工業者からの意見を聞くものでありますので、9億円が増加した内容について発言をよろしく願いいたします。

○二本柳設計事務所（二本柳氏） それでは、今回設計を担当いたしました、二本柳でございます。私どもと隈研吾建築設計事務所とのJVで行った建築でございます。

それで、ご説明の前に皆さんご存知のとおり、今回の建物のコンセプト。これはもう皆さんご存知と思いますので、防災および環境、安心、利便性、楽しむ、歴史というキーワード

をもとに隈事務所さんと我々3年半をかけまして、前町長、役場の担当の方、それから各施設を利用される方々の意見を聞きながら、役場機能だけではなくて、役場機能以外の時間帯や土曜日、休日などにも町民の方に利用できるような公民館施設、それから町民のための健康保険センター、子育て支援センターなどを役場庁舎の部分はきちっとセキュリティを守って、土日も役場の終わった後も使えるような建築として計画をしまりました。

その中で、我々とすればせつかくの歴史ある八雲町の役場庁舎ということで、隣にある徳川公園との共生も将来的にできるということも兼ねて、木をたくさん使って、それから大きな庇（ひさし）を使って作った建築でございます。巷では、その大きな庇が相当お金がかかっちゃって無駄なものではないかっていうことを言われてますけども、決してそうではないと思っておりますので、全体にその説明だけをさせていただきます。

それと、今回2回目の入札も不調になったという部分の中で1回目の入札のときから町の担当者の方々とどうしたらこの建築が予算のとおりにいけるのかということも議論を重ねてまいりました。その議論の部分の時系列で皆様にご報告をしたいと思います。

この時系列の報告につきましては、当社の実質の担当である川本のほうから、時系列で皆様に説明をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

○委員長（牧野 仁君） ありがとうございます。川本さん、よろしく願いいたします。

○二本柳設計事務所（川本氏） 二本柳慶一建築研究所の川本です。よろしく願いいたします。

それでは、1回目の不調になってからの計画のほうを私のほうで説明させていただきます。

まず、2025年9月末もしくは10月上旬だったと思うんですけども、担当係長より予定価格と入札業者の価格の見積価格に大幅な対比があるということで入札を辞退するために入札が中止になることの連絡をいただきました。

その中で主な価格差の原因としては鉄骨工事にあるということで、鉄骨が元々の設計内訳の中、倍近い金額になってるんじゃないかというお話がありまして、設計金額の妥当性を確認するように求められました。

弊社としましては、2025年の10月8日に鉄骨工事の設計金額の妥当性を確認するために設計時に見積り徴収してた鉄骨工場とまた別の札幌のA社のほうに見積り依頼のほうをかけております。

10月14日、A社のほうから見積りが上がってきまして、見積金額としては15億6千万。別途金額が14億3千万ということで見積書を受け取りました。

その見積書の中を確認していたところ、鉄骨の運搬費がメッキ工場から現場まで200kmという距離の運搬費が鉄骨の1tあたり5万円という価格になってるんですけども、それに対して、これは見積書記載の間違いだと思うんですけど、函館から八雲で100kmという運搬費が1tあたり70万という価格が書かれていて、これはちょっと見積りの記載が間違ってるんじゃないかということで、業者のほうに見積書の修正を依頼しました。

10月15日に修正した見積りを受け取ったんですけども、その中で鉄骨運搬費が札幌の鉄骨業者に依頼したので工場が石狩にあるんですけども、石狩から八雲までの200kmで1tあたり7万円ということに修正されてきたんですけども、今度逆に工場加工組立費

というのが項目の一つにあるんですけども、それが元々の見積書が1 tあたり6万8千円だったのが1 tあたり71万5千円に変更をされてました。それで、何かおかしいなということで電話でも聞き取りしたんですけども、メールのほうでのコメントがありまして、全体の予算額を組んで金額を算出しているために、ここの金額がおかしくなっておりますということ、メールのほうに記載があつて回答いただいております。

その中で、工場組立加工費が異常に高くなったので、根拠となる工場組立加工費の内訳を提示してくださいということで、鉄骨業者のほうには依頼しております。

ちなみに、設計内訳書のほうでは工場加工組立費を1 tあたり8万7,900円という金額で見込んでおりました。それで、1回目に出てきた見積もりの単価というのが設計で見込んでる金額よりも安い金額で出てきてたんですけども、それが運搬費がかかるということです。

通常の見積りですと、全て単価を積み上げていって最終的な見積金額っていうのが出てくるんですけども、このコメントにあるとおり、最初に頭金額を決めてそれに対しての見積りを組み立てたりっていうようなコメントがあつたので、ちょっとこれはおかしいですねということで弊社としても疑問を持っているところでした。

A社のほうの、ちなみに工場組立加工費の内訳のほうを2025年10月21日のときに受け取っております。その中でいきますと、工場の加工費というのが刊行物という、要は市場で大体出回ってる相場の金額が刊行物で公表されてるんですけども、それでいくと1 tあたり5万8,900円という金額があるんですが、見積金額のほうは36万円が出てます。

工場の溶接費も1 tあたり4万4,800円が公表価格なんですけれども、こちらのほうが15万円という金額が出てきておりました。その他にも、一般経費と組み立て費の中には、鉄骨を組み立てていく上では図面を作成したりとかそういうのが入ってるんですけども、その金額自体も9,440万という1 tあたりにすると8万円という非常に高額な金額が入ってて、加工組立費の内訳に関しても疑問を持たざるを得ないような金額が出てきているという状況です。

○二本柳設計事務所（二本柳氏） 補足しますけども、この図面費、詳細図費、検寸図費というのは、鉄骨を加工するために作る図面代なんですけれども、その図面の作成料が約9,400万という金額で出てきたもんですから、我々としてはこれは何かおかしい金額ではないかということで、何とかA社のほうにはお話をしたんですけども、結果は要するに全体の金額が決まってるんで、これ以上は下げれませんという返答でございました。

○二本柳設計事務所（川本氏） 結局10月22日に八雲町のほうにお伺いして、今までの鉄骨の見積りの経緯のほうを説明させていただいております。

このとき、萬谷町長、竹内副町長、吉田さん、建築の藤田課長、安藤係長、中野さんが出席されて説明させていただいております。そのときに札幌のA社から徴収した見積金額と、設計の元々見てた金額の比較を行い、その中で工場加工費が異常に高いということで、八雲町のほうから了承いただきまして、道外の鉄骨業者の見積りも徴収することになりました。

そして、2025年の10月23日に函館のB社のほうに、現状の鉄骨工場の相場から聞き取りを行い、再見積りを依頼してます。

○二本柳設計事務所（二本柳氏） これは念のために札幌のA社だけではなくて、函館のB社からも念のために見積りを。A社だけがおかしいのかどうなのかというのを確かめるために見積りをとってみました。

○二本柳設計事務所（川本氏） 10月24日、青森と仙台の鉄骨工場のほうに見積り依頼をかけております。

2025年の10月29日、函館のB社から再見積りを受領しまして、こちらのほうは14億5,800万。別途金額が12億8千万ということで見積りを受け取っております。

○二本柳設計事務所（二本柳氏） このときも、札幌のA社とほぼ変わらない金額が出てきております。

○二本柳設計事務所（川本氏） 10月30日に青森のC社のほうから見積りのほうを受領しました。青森のC社の見積金額が5億3,700万という金額になっております。

ただ、一部見積り含まれてない項目がありましたので、不足分約1億4,700万を加えると6億8,400万という鉄骨工事の金額になることを確認しています。元々設計で見てたのが6億5,800万でしたので、概ね近い金額の見積が出てきているなというところは確認が取れております。

10月30日に見積りを受け取りましたので、10月31日に再度八雲町のほうにお伺いして、町長はじめ担当係長と建築のほうに説明を行わせていただきました。鉄骨工事に関しては、道内の各社の見積金額の比較表を出して、差額のほうに関して説明させていただいております。

青森ですけど、C社を採用した場合には設計金額から2,553万4,040円増額にはなってしまうと。ただ、道内業者を使った場合には6億円以上の増額になりますということを説明させていただいております。そのとき、外部の庇を取りやめた場合の工事費の減額についても資料のほうを提示して説明させていただきました。

同じく10月31日なんですけども、打ち合わせが終わって事務所に戻ったところ、仙台の鉄骨工場D社のほうからも見積りが届いておまして、そのD社のほうの見積金額としては、こちらの一部見積り含まれてないところもあったんですけども、約7億8,100万という金額でC社までには及ばないんですけども、道内業者からは非常に価格は安く出てきているという状況です。

また、D社に関しましては、仙台の鉄骨工場なんですけれども札幌に100%子会社の工場がありまして、実際鉄骨の加工ですとか、鉄骨の建て方、現場のほうに関しては、札幌の工場のほうで行うということで回答いただいております。

その後、11月4日、建築担当係長より建築主体工事に関しまして設計内訳書の鉄骨工事費と北海道単価といいまして、北海道のほうで決められてる単価があるんですけども、こちらのほうの最新版の入れ替えの依頼を受けております。

11月6日、私のほうで鉄骨工事の見積もり金額C社の一番安い青森の業者のほうに入れ替えて、あと北海道のほうで決められてる単価を元々は令和7年7月版の単価を使ってたんですけども、それを10月版の単価のほうに入れ替えております。

○二本柳設計事務所（二本柳氏） これも補足しますけれども、公告とやはり時期がずれてくるんで、単価がどんどんどんどん上がってきてるんですね。

それで、新しい単価で入れ替えということと青森のC社の見積金額を入れることによって、何とか数億の増減くらいで済むのかなということで、2回目の予定価格を決めたという経緯がございます。

○二本柳設計事務所（川本氏） 12月4日、再度担当係長より再入札に向けてということで、工事の着工時期がずれましたので採暖養生費ですね。要は、冬季間に元々工事をやらないうという予定でいたんですけれども、入札の1回目が不調になったことで工事の着工時期がずれるので、冬場にどうしても工事をやらなきゃいけない部分があるという中で、採暖養生というのが必要になってくるんですけども、その分の費用を見込んだ内訳書を作成して欲しいということで依頼を受けております。

それとあわせて、12月5日、設計JVのほうから八雲町の担当次長のほうに次回の入札に向けて減額調整を行ったほうがいいでしょうか、ということで提案をしたんですけれども、その必要はないですということで回答を受けました。

それで12月6日、この採暖養生費を追加した分の内訳書というのを八雲町のほうに提出しております。その後、年が明けて2026年1月9日、担当係長より2回目の入札も中止になるということでの連絡をいただいております。

それを受けまして、2026年1月13日、今度担当次長のほうから1月19日に議会説明を行う予定ということで連絡を受けまして、説明内容に関しましては、まず一つ目が現設計のまま入札の金額を上げて、要は上昇して入札を行う。2番目が庇を取りやめた減額案で設計変更を行う。3番目がゼロベースで設計をやり直す。4番目が建て替えの計画を中止するという、この4つで議会のほうに説明する予定です、ということでお話がありまして、その中で我々設計途中で作成してた庇をなくしたパーツとか、そういうものを使用してもいいでしょうかということでの問い合わせがありました。

議会のほうに庇をとりやめたとかを提案するというお話がありましたので、急遽設計JVのほうで今回9億価格が違うというお話がありましたので、その中でもっと減額することができないだろうかということを検討しまして、1月16日に萬谷町長はじめ、副町長と担当課長、係長へ減額案のほうの提案をしています。

○二本柳設計事務所（二本柳氏） そのときは、私ども事務所と隈事務所さんと3社でウェブ会議で説明をしまして、約7億の減額案の提示、ただし庇をやめることによって外観のデザインは若干変わるんで、そここのところの金額は多少出入りはありますよということでの部分で、1月16日の週から議会、それから住民説明会を行うということで、それを13日に聞いても我々も減額案の作成作業を寝ないでやって、提出をいたしました。

○二本柳設計事務所（川本氏） 1月17日なんですけれども、16日に説明を行った補足資料というかたちで、今までの経緯ですとかどこが高く入札ができなかったとか、そういうものをまとめた資料を八雲町のほうに提出させていただいております。

その後、議会説明ですとか住民説明会があったということをお伺いしてまして、2月5日の竹内副町長より電話にて、ゼロベースで設計のほうをやり直しますということでの回答をいただいております。

○二本柳設計事務所（二本柳氏） 補足しますけども、1月16日のウェブ会議の中で、我々とすれば7億の減額案の提示。それから、その一覧表も町のほうに提示をさせていただい

ております。その中で、私と隈事務所のほうから鉄骨工事を青森の業者さんに発注することができないのでしょうか。ということは、道内業者さんとの差が約半分、6億近くあるもんですから、萬谷町長のほうにそれをお願いしたところ、町長から八雲町の仕事なので道内の業者を使うことでしかできないと。道外の業者さんは使えないということの回答を受けております。

それともう一つは、今入札参加条件の中で大手さんと地元のA社、B社の3社以上のJVということで聞いておりましたけども、手を挙げてるのは1社だということだったもんですから、もう少しその辺の間口を広げることによって、何社かたくさん業者さんが参加できるような状況がとれませんでしょうかということも我々のほうから提案をいたしましたけれども、萬谷町長のほうからは、それはできませんということの返答をいただきました。

そんな中で、町民説明会などを行った中で、我々に2月5日竹内副町長より、ゼロベースで設計をやり直す旨の返答をいただいたというのが現状でございます。

もう一つ、いいですか。我々も、この話がどこから出てくるかわかんないんですけども、今回の建物はNearly ZEBという、ZEBでもかなり高度な省エネルギー、75%のエネルギー削減ということを目指した建物でございます、それをやることによって、これから庁舎で使われる電気の25%が自前で発電できるというシステムになっております。

これについてはお金もかかりますけども、3億6千万というZEBの補助金がもらえることが確定しております。

ですけども、先日の道新を見ますと、Nearly ZEBを止めて通常のZEB Readyで50%にすると、太陽光発電だとかそういうものが減って減額にはなるという報道を受けてますけれども、その部分は補助金でちゃんと出てくるということで、この建物がある限り25%の電気料っていうのは外れてきているという部分では、我々としてもこの建物をこれから将来20年50年先のことを考えたときに、ZEB Readyというものが必要だろうということで考えたんですけども、そこのところもやめることによって、太陽光発電が減りますよとかっていう記事になってますけども、これは決して町のためにはいいものではないのかなと思っておりました。これは補足の部分です。

○委員長（牧野 仁君） ありがとうございます。わかりやすい説明。

早速ですけども、ただいまの説明に対して、確認したいことがあれば各委員の発言を許します。

○委員（赤井睦美君） 1個だけ。

○委員長（牧野 仁君） 赤井委員。

○委員（赤井睦美君） ただいまのZEB Readyのお話なんですけど。それを使うと、私の聞き間違いかもしれないけど、工事する期間が何月からじゃなきゃいけないとか限られてて、それに間に合わないからやめたっていう説明もあったと思うんですけど、工事期間が限られるっていうことはないんですか。

○二本柳設計事務所（二本柳氏） 今の我々の計画では、工事期間が延びるということはありません。

○委員（赤井睦美君） はい。

○委員長（牧野 仁君） 赤井委員。

○委員（赤井睦美君） 何月までに仕上げなきゃいけないっていう縛りがあるって聞いたんですけど、そんなことはないですか。

○二本柳設計事務所（川本氏） はい。

○委員長（牧野 仁君） 川本さん。

○二本柳設計事務所（川本氏） ZEBに関しましては、各年度ごとに補助金の金額が決まっていますので、その年度ごとにやらなきゃいけないっていう工事が発生します。どうしてもZEBの審査期間というのが年度末のほうにありますので、その期間に関しては、ZEBに関する工事ができないということになっております。

元々その期間は工事を休むということで工程を組んでたんですけれども、それが今回例えば設計が全部やり直しになりますよってなると、そういうことをやってると工事も当然間に合わなくなるので、ZEBをとることを諦めるという判断になるかなという話かと思いません。

○二本柳設計事務所（二本柳氏） やり直すということですね。

○二本柳設計事務所（川本氏） そうですね。このままの設計でいく場合に関しましては、着工はずれ込んではいますけれども、その辺は吸収していけるんじゃないかということでは考えています。

○委員長（牧野 仁君） ありがとうございます。

あと、他にございますか。

○委員（三澤公雄君） はい。

○委員長（牧野 仁君） 三澤委員。

○委員（三澤公雄君） ちょっと聞き取れなかったところがあるんで確認したいんですけども、減額提案をしたっていうところと鉄骨工事を青森の業者に発注できないか。また、入札のその間口を広げるっていうところの、そういうような提案したところの日付、時系列順にお話したと思うんですけども、日付のところをちょっと記録できなかったもんですから。

○二本柳設計事務所（川本氏） はい。

○委員長（牧野 仁君） 川本さん。

○二本柳設計事務所（川本氏） 減額提案をしたのが2026年1月16日です。これはウェブ会議のほうで、八雲町さんのほうに説明をさせていただいております。同日に、先ほど言った町長のほうに参加業者の間口を広げることができないかですか、青森の鉄骨業者を使えないかということでの提案をさせていただいております。

○委員（三澤公雄君） これも同じ日に。

○二本柳設計事務所（川本氏） 同じ日です。

○委員長（牧野 仁君） ありがとうございます。

あと、よろしいですか。

○委員（三澤公雄君） もう一度、その部分で。断ったのは、町長の言葉として断られたっていうことなんですか。

○二本柳設計事務所（二本柳氏） はい。

○委員長（牧野 仁君） 二本柳さん。

○二本柳設計事務所（二本柳氏） ウェブ会議の中で、これは私が発言した言葉ですけども、町長のほうから八雲町の仕事ということで道外業者を使うことはできないということをはっきり言われましたので、あとは我々は町のお考えなんで、それ以上のことは私どもはお話をしておりません。

○委員長（牧野 仁君） ありがとうございます。

○委員（三澤公雄君） ウェブ会議がちょっと不慣れだったけども、生だったんだね。わかりました。

○委員長（牧野 仁君） あと他にございませんか。

○委員（三澤公雄君） はい。

○委員長（牧野 仁君） 三澤委員。

○委員（三澤公雄君） いろいろ細かい単価の数字だとかを述べられたんですけど、正直メモ取りきれない部分があったんです。その数字なんか僕らが後々検証する上でもせつかく数字をお話してくれたので、もしよかったらその資料となるものを共有したいなと思ったんですけども。

○二本柳設計事務所（二本柳氏） はい。

○委員長（牧野 仁君） 二本柳さん。

○二本柳設計事務所（二本柳氏） これは我々も町からの依頼の仕事なものですから、町に出してるもの、鉄骨の比較表。

○委員（三澤公雄君） あ、そっか。出してるんだよね。わかりました。

○二本柳設計事務所（二本柳氏） そこら辺は、町のほうには出してあります。もし必要であれば、我々が出してもいいんですけども。

○委員（三澤公雄君） はい。

○二本柳設計事務所（二本柳氏） 例えば、青森の業者さん、それから仙台の業者さん、札幌の業者さんの見積りは全て町のほうに提出してあります。

○委員長（牧野 仁君） ありがとうございます。

○二本柳設計事務所（二本柳氏） それと、比較表も提出してあります。我々が作った減額案の一覧表、それをわかりやすくまとめた一覧表も町のほうに提出はしてございますので。

○委員長（牧野 仁君） その件はよろしいですね。

○委員（三澤公雄君） はい。

○委員（赤井睦美君） 1点だけです。

○委員長（牧野 仁君） 赤井委員。

○委員（赤井睦美君） ちょっと聞き間違えだったらごめんなさい。

底を取った図面というか、見た目のものも提出したって聞こえたんですけど、それで大丈夫、間違いないですか。

○二本柳設計事務所（二本柳氏） 提出というか、あんまり我々もただ底を取っただけの図面だったものですから、あんまり僕らも外には出していただきたくない、デザインが全然行われていないんであまり出したくはないんですけども、その部分も一応参考ということで町のほうにはお出ししてはございます。

○委員（赤井睦美君） はい。

○委員長（牧野 仁君） 赤井委員。

○委員（赤井睦美君） やっぱり庇を取っただけでかなり金額は変わったんですか。

○二本柳設計事務所（二本柳氏） はい。

○委員長（牧野 仁君） 二本柳さん。

○二本柳設計事務所（二本柳氏） 実は庇を取ってもおそらく1億5千とか変わるかわからないかという。ただ庇を取っただけだと何も正面の顔にお化粧をしてないという建物になってしまうので、ですからそこら辺は庇を取るだけではなくて、例えば新しく庇をデザインするだとか、庇をちょっとちっちゃく入れるだとかっていうこともあるんで、その辺の金額については、これが5億も10億もかかるって話ではないんですけども、かかりますよということはお伝えはしております。

ただ、やっぱり我々が考えるのは、やっぱり鉄骨工事が、これは北海道が特殊なのかどうかわかんないんですけども、相当開きがある。それだけで約6億ぐらいの開きがあるということでもありますので、それが一番大きい要因だったのかなと。

これは町からも言われてましたけども、鉄骨が高いんですよということを言われたんで、八雲町さんのほうと町長の了解いただいて、道外からも取ったっていう経緯でございます。

○委員（赤井睦美君） ありがとうございます。

○委員長（牧野 仁君） あと、他にございませんか。

○委員（横田喜世志君） 一つちょっと。

○委員長（牧野 仁君） 横田委員。

○委員（横田喜世志君） 鉄骨の見積りを数社取っていただいたという話なんです。それで、例えばD社は札幌に支社があるっていう話をしてましたね。

その支社から見積もった金額っていう格好なのか、仙台の本社から見積もったっていう金額なのかわかりますか。

○二本柳設計事務所（川本氏） はい。

○委員長（牧野 仁君） 川本さん。

○二本柳設計事務所（川本氏） 見積りとしては、あくまでも仙台の業者のほうからの見積りです。ただ、鉄骨の製作に関しては札幌のほうで行いますということで報告を受けております。

○委員長（牧野 仁君） よろしいですか。

○2番（横田喜世志君） はい。

○委員長（牧野 仁君） 他にないようですね。

（「はい」という声あり）

○委員長（牧野 仁君） わかりました。

それでは、参考人聞き取り調査をこれで終了いたします。二本柳慶一建築研究所さん、ご苦労様でした。ありがとうございました。

【二本柳設計事務所退室】

○委員長（牧野 仁君） それでは休憩を入れさせていただいて、40分に再開します。

<<休憩>>

<<再開>>

○委員長（牧野 仁君） それでは、休憩前に引き続き、再開いたします。

それでは、皆さんで今回の調査について協議に入りたいと思います。

○委員（三澤公雄君） はい。

○委員長（牧野 仁君） 三澤委員。

○委員（三澤公雄君） これまで、数回全協で町側でしてきた説明と、あえて今の段階では齟齬という言葉にしてるけど。

なので、この間の二本柳さんとの協議に関しての資料、役場の持っている資料を我々に見せてもらいたいですね。まず、そこからしっかりやらないと。

○委員長（牧野 仁君） これは、時期的なものを考えると去年の入札不落した9月頃からの資料ですか。それ以前のも、それは要らないよね。去年9月から。

○委員（三澤公雄君） そうですね、1回目の入札が。

○委員長（牧野 仁君） 1回目不落になってからの、2回目に向かったの。

○委員（三澤公雄君） 1回目が不調に終わったあたりからの。

二本柳さんが時系列でお話したぐらいからの資料をもらって、二本柳さんの今日の説明の信憑性の確認にもなるし、僕たちが聞いてた説明との今の時点では齟齬の部分が整理でき、もしくはそうやって照らし合わせたところに明らかに齟齬ではなくて相違点があるんであれば、常任委員会としても、さらにいろいろ調査していかなきゃいけないと思いますんで、まず資料の請求からお願いしたいと思います。

○委員（赤井睦美君） はい。

○委員長（牧野 仁君） 赤井委員。

○委員（赤井睦美君） すごい言い方が変ですけど、今日は設計屋さんの立場で説明したでしょ。だけど、入札する人っていうのはまた別な立場だから、その設計屋さんの立場ばかり聞いて、だから不落だったんだねっていう結論には全然達しないので、その入札した人も意見聞くとか、そういうことではなくてね、だから、それは町と二本柳さんとのやり取りがおかしいか正しいかではなくって、入札する人たちが入札してくれなかったっていうところを、私は逆に知りたいのでね。

ここで、いくら資料を請求してもらっても、どうしようもないんじゃないかと思うんですけど。

委員会としては何を目的に、例えばこれで正しいという言い方は悪いけれども、二本柳さんはここまで頑張りましたよっていうことを言いたいのか、不落になった理由が私達にはわからないから不落になっちゃったけど二本柳さんは頑張りましたよ、しか今日は感じられなかったんだ。

ですから、委員会として何を求めてそれをするのかなっていう、ごめんなさいね、何言ってるか自分でもよくわからないですけど。

だから、なんかたった 30 分か 40 分でこんな 1 時間半もかけて申し訳なかったなども。今後はこういうことがあったらリモートでいいかと思ったけど。

町が言ってることと、二本柳さんが言ってることが正しいか正しくないかっていうことを比較しても、不落になった原因ではないような気がするんで、私はね。その資料を求めて、だから不落になったんだとわかるように。

だから、委員会として何を目的としてそういう資料をもらって、どうするかっていうところをちゃんと教えてくれれば。なんか私よくわかってないです。ごめんなさいね。

○委員（三澤公雄君） 今、僕たちはね、僕はこういうふうを受け取ってんだけど、町側の説明がいわゆる相手方がどうして札を入れなかったかはもう推察しかできないと。

1 回目には参加希望したところがあったんで、そこに聞き取りしたら鉄骨価格に差があったと。

2 回目は手を挙げるところがなかったんで、推測の範囲なんで、きっと物価高騰に見合う予算ではなかったんでしょうっていうことで理解しようとしてた。

でも、もう一方の当事者である設計業者さんから今日のお話を聞いたときに、町長はね、鉄骨を安く買える青森のところを設計業者さんちゃんと許可をもらって調べたら、そういう金額が出てきたんで入札の中に入れてけども再公告のときに、それは僕らにも説明したよね、だけど、町長の言葉としてね、八雲町なので、道内の業者を使わなければならない、そして 1 回目と違う、入札の間口広げる組み合わせを変えるっていう提案についても、そういうことはできないって言ったところは、僕らは町長からそういう言葉は聞いてないからね。

なので、つまり不調にならないためのベストを尽くしたのかって言ったら、尽くしてないんじゃないか、今の証言を聞くとね。

なので、そここのところの資料開示で本当に言ったことがそうなのかっていう資料があるのかないのかは、調べる価値は相当あると思うんですよ。そういうところのまず理解。先ほど赤井さん言ったように、原因究明に届かないんだからっていう、まだ現在では届かないかもしれないけども、1 歩でも 2 歩でも前に進む努力を、議会はベストを尽くしてるってところはしっかり見せていかなきゃいけないと思うんで。

だって、今齟齬がある証言だったわけですよ。それをね、届かないんだからやってもしょうがないよねっていう態度でいるのと、とにかくこの原因究明に対してまっすぐ進んでいく議会っていうものを見せるのと、普段、赤井さんが言ってる町民に議会の姿勢を見せるっていう考え方とはちょっと真反対の提案だったんで、意外に思ってる。

○委員（赤井睦美君） えー。町民に議会は何もしてませんよっていうんじゃないくて、先ほどの、道外の鉄骨が安いっていうのは説明ありましたよね。

けども、不落になったのは、建設工事さんがはっきりは言わなかったけれども、元々のお付き合いがあって、そんな知らないところに頼めないとかそういう都合とか言わなかった。

○委員（横田喜世志君） あの。

○委員（赤井睦美君） どうぞ。

○委員（横田喜世志君） これに関しては、入札参加条件って二本柳さんも言ってたわけな。それは八雲町が決めた条件なわけで、これに合致しないと入札できないということですね。

○副委員長（安藤辰行君） 参加できないからな。

○委員（横田喜世志君） そうすると、例えば噂になってる部分の、地元業者を入れろと。ただ、八雲だって地元業者は他にもあるわけだよ。頭とるとこだって、道内にもあるわけだよ。そこが要は、町内の業者と組んで入札に応募しなかったってことでしょう。結果的には。

一番最初は、1社でなくてもいいわけだ、そういう条件でいけばね。入札参加条件なんだから。それを1社しかない、それで次募集したって、どこも組んでこなかった。組んでこないっていうか金額提示して、道内の業者ではもう全部見送りになったと。そういう無駄な努力は、無駄とは言わんけども、努力するんだったら1回目で多分努力して参加すると思うんだよね。

それで、参加した結果、1社しか入札に参加しなかった中で、要は、中身わかってる、建てるものがわかってるわけだから。

○委員（黒島竹満君） 1組ではない。2組だって。

○委員（横田喜世志君） 2社だったの。

○副委員長（安藤辰行君） 入札はね。

○委員（黒島竹満君） 参加したのはな。

○委員（横田喜世志君） 2JV。まあ、そういうのがあって、それで両者ともさ、要は金額が合わなかったから不成立だよな。

だから、二本柳さんが言うように入札参加条件を緩和だとか、道内じゃなくて道外も入れることはできないかっていう話になると思うんだよね。それは八雲町が決めた条件だからさ。うちはどうってということにはならないよ。

○委員（三澤公雄君） そういうことはわかってんだけど、話の腰を割るわけじゃないけど。

だからそういったことを取っ払うというか、違う条件にしたら、1回目と同じことにはならないんじゃないですかっていう提案はしたっていう証言だと思うんだよね。

そして、もう一つは鉄骨業者の云々も八雲町なので道内事業者は使わなければならないっていう町長が本当にその発言の、今日言われたようなことがあったんだしたら、僕らにはかもしれないと、業者はこういう思惑だからできなかったかもしれないっていうことを言ってるけど、二本柳さんの証言のとおりだったら、町長自身が鉄骨も道内業者を使わなければいけないっていう強い意向を何らかのかたちで外にも出してたのかもしれないよね。だから、入札しなかったんじゃないかっていう。その道内の企業なら買えるんだけどって。

もう一つは、今横田さん言ったところも町の条件なんだから、町が変えようと思えば変えられるのさ。そういった意味で、不調にならない努力を、私はこういうかたちで進言したんだけども、採用されなかったっていう事実を僕らは検証しなきゃいけないと思うんですよね。

町長は、前の町長の決めたことで私何にも悪くはないですって、ただただそうやっていうね、謝り方をしているようにしか見えないんで、萬谷町長自らの意思が働いてる部分が今日2つの言葉が出てきたことが本当なのかどうかをしっかりと調べないといけないと僕は思うんですよ。

○委員（黒島竹満君） ただ、今二本柳さんが言ってるのは鉄骨だけだよ。

- 委員（三澤公雄君） うん、そう。
- 委員（黒島竹満君） 鉄骨だけの違いでないでしょ。9億違うつつつたら、全体の金額違うっていう。
- 委員（三澤公雄君） 9億違うって、主に鉄骨の資材価格って言うてることに対しても多くの人は疑問思っただけ。
- 委員（黒島竹満君） だからさ、物価高騰でさ、全体的には上がってるっていうことだよ。
- 委員（三澤公雄君） いや、9億は鉄骨って、主に鉄骨っていう言い方されてるよね、今まで説明では。巷でもそういう理解されてるから。
- 委員長（牧野 仁君） 比率は、鉄骨が主です。
- 委員（黒島竹満君） いやいや、言うてるのは鉄骨って言うてるわけだから、今二本柳さんが言うてるのは鉄骨だけのことだからね。
- 委員（三澤公雄君） それはもう。
- 委員（黒島竹満君） 他のほうだって物価高騰で上がってるわけだから。そのの違いっていうのはあるわけだから。
- 委員（三澤公雄君） だから、そのことに関して僕は今何も発言はしてないし、二本柳さんが発言したことに対しての信憑性を確認するために資料はとらなきゃいけないですよ。町長の言葉として、ウェブ会議でそうやって言うてたっていうんだから。
- 町長の言葉は単なる人間の言葉じゃないわけですから、役場は。なので、この発言がまず本当にあったのか、あったときの影響度っていうのはまた議会で調査するメンバーでいろいろ考えなきゃいけないと思いますけども。僕は資料請求する値がないなんてとんでもないことだと思う。
- 委員（赤井睦美君） 何回も言ってごめん。やっぱり入札できなかったというか、しなかった方たちの考え方っていうのもあるわけだから、町長と二本柳さんのどっちが正しいかで不落になったとかって、そんな短絡的な原因究明っておかしいんじゃないかと思うんですよ。
- 委員（三澤公雄君） だから、まずこの発言の真実性、信憑性というものを調べるって僕は言うてるんですよ。それをしなきゃいけない。ここから推測されることはいくつかありますよ。だからその推測は検証しなきゃいけないでしょ。
- 委員（赤井睦美君） ただね。
- 委員（三澤公雄君） 結論を出すって言うてませんよ、僕はこのことで。
- 委員（赤井睦美君） 私だってそう言うてませんよ。
- ただね、今日聞いたお話と町長から発言がないから、なんていうかどっちが正しいの、どっちが嘘つきなんだみたいなことって意味あるのかって。
- 委員（三澤公雄君） だから、文章を残してる行政だから、文章をまず見ましようねって言うてる段階です。
- 委員（赤井睦美君） いや、だから見てね、嘘ついてるとい、なんていうか齟齬がある。
- 委員（三澤公雄君） 齟齬ですよ。僕も相違って言うてませんから。齟齬があるっていうふうに我慢してます。

○委員（赤井睦美君） 齟齬があるっていうのは、文書を見るのは、後から読むのは一番大事だと思うけど、そういうことが原因究明なんだろうかっていう、自分の中では疑問です。

いや、資料だから見ませんかとか言わないよ。資料は見るけれども、そのことが本当に原因究明なのかなっていう。

○委員長（牧野 仁君） 原因究明にならないけど、整合性も大事なので資料を見ながら整理することも一つの手だなと。いろいろ数字も20ヶ所ぐらい言われたのでちょっと頭に入らないところがあるので、それは資料請求してみんなで確認し合うってことは大事なことで。さっき、三澤さんの言う町長の発言の確認も多少はしなきゃ駄目だなと。

○委員（三澤公雄君） だって、萬谷町長の名誉も、場合によってはね。人の取り方のね。

○委員長（牧野 仁君） 道内企業を使いたいという。

○委員（三澤公雄君） いや、この発言を町長が認めてくれたなら、町長だって、いやいや、この言葉の意味はこういうことですよっていう。出てくるでしょうし。

○委員長（牧野 仁君） 地元の業者を育てるための何かを言う。

○委員（三澤公雄君） だから、それはもう推測の域出ないんだ。まずは残してある文章を。

○委員長（牧野 仁君） とりあえず、整合性保持には両方の意見聞いた中で、役場でも話してるお話聞いてると整合性とってる話もしてますから、全部が全部否定できるわけじゃない。まあ一部の部分だけ、三澤さんのちょっと疑いもあるんだけど、その辺は。

○委員（三澤公雄君） 疑いじゃないですよ。齟齬があるから確認しましょうって言っています。

○委員（赤井睦美君） それはわかりますよ。その意図は非常によくわかりますけれども、それ以外、その後の原因究明って他にできないんだろうか。

○委員（三澤公雄君） だから業者への聞き取りというのは、町の段階でもできないって言うてるし、それが地方議会の我々の中にそこまでの権限は調査能力はないからね。国会議員ならまだしも、やっぱり業者に当たるってことはできないと思うんで。

○委員（赤井睦美君） じゃあ、その資料見て、せっかく二本柳さんが提案してくれてのに受けなかった町の姿勢がまずかったんだね。今回は、みたいな感じになっちゃうかもしれない。

○委員（三澤公雄君） いやいや、わかんないですよ。その資料にどう書かれてるのかも含めて、なぜ僕たちにストレートに説明しなかったんだろうっていうところの疑問は、今の段階ではみんなが共有できること。

○委員（赤井睦美君） 皆さんもそう思ってるんですか、とか言って。

○委員（黒島竹満君） いいんでないの、疑問のある所は。資料があるって言うなら。

（何か言う声あり）

○議長（大久保建一君） はい。

○委員長（牧野 仁君） 議長。

○議長（大久保建一君） 町長部局の町からの説明でいけば、施工業者が道の会社なので、普段取引のある会社から仕入れるような話だったんだよね。

それで、今二本柳さんが言うには、町長から道内の鉄骨でなければ駄目。そんなに齟齬があります。内容としてはあんまり違いはないと思うんだけど。

○委員（三澤公雄君） まじかよ。

業者はこういうことかもしれないっていう想像の域で僕らに答弁したの。でも、今二本柳さんは、ウェブ会議で、ライブで町長が道内業者を使わなければならないって言って、諫められたって答弁してるんですよ。自分の発言もそうでしょ。発注できないのかって言ったら、そんなことできませんよと。

まあ、口調はどうかかわからないけどね。そういうふうに認識できる証言だったんですよ。だから明らかに違う。少なくとも 100 歩譲って、ちょっと違うな、ぐらいは議長思わなきゃ。僕らが選んだ議長なんだから。

○議長（大久保建一君） 俺はそんなに感じないんだけど。

○委員（三澤公雄君） そっか。

○委員（赤井睦美君） だって、受け止めの違いだと思うんだよね。

だから、私はそんなに町長が、何かせっかく提案してくれたことが町長がバンって、町長の独断でそれを否定したとは思えないんで。

なんか前にちらっと建設課長が何業者かに聞いたときに、いやそんな付き合いのないところからは買えないよって話を、どっかから私聞いたんだよね。

○委員（三澤公雄君） そういう想定の話はしてるよ。

○委員（赤井睦美君） だから、そういうのを考えて、町長はよそから取ったら買ってもらえないんだな入札されないんだなっていう想像したかもしれないし、だからその一言で独断と偏見で。

○委員（三澤公雄君） 1月16日の、僕らの全協の前の会議にこういうことをやってるんですよ。

○委員（赤井睦美君） 知ってるよ。だけど、調査はその前にしてるでしょ。その入札されなかったって。

○委員（三澤公雄君） だからさ、16日に二本柳さんが設計変更の提案もしてることも僕らには伏せてるんですよ。今言ってないけども。

だけど、そのことだって、今日あれって。これはもう齟齬どころか相違ですよ。そういうことも無視するんですか。

○委員（赤井睦美君） いや、無視じゃなくて。

○委員（三澤公雄君） これはね、僕はもう皆さんの共通認識だと思ってる。

1月19日の全協の前に提案を受けたのに、僕たちは今までの業者さんと設計できませんかっていうことを19日の段階でも発言してるけど、それは真っ向否定してきたんですよ。

いや、そんなことを向こうが受けてくれますかねって、副町長まですつとぼけたんだ。今思えば、演技だよ、あれ。16日にそういう提案を受けててさ、ひどいんじゃないか、僕らに対して。なぜそういうふうに思わない。

○委員（赤井睦美君） いや、私はそんな騙されてるとか思わないから。

○委員（三澤公雄君） 騙されてるなんて言ってないよ、俺は。

○委員（赤井睦美君） と思わないから、別に三澤さんが言ったっていうわけじゃないけど、私はそうは思わなかったから。庇を取ったのを見せたんですかって聞いたら、いや提出しましたっていうのが、へえそうなんだって。だけどすぐ取っても、それこそかっこ悪い

からちょっと何か付けて値段は大して変わらないっていう説明されてたから、町としては値段が大した変わらないんであればって判断したのかなと私は思ってる。

○委員（三澤公雄君） 13日にゼロベースの提案をしますよっていうことを知らされて、3日かけた突貫工事で16日の提案作ったってわけでしょ。

これは正式な設計じゃないっていうことも含めて提案してるっていうことを抜け落ちないように言ってたわけだ。だから、そんな不格好なっていうのは、不格好は承知。今の設計屋さんもこんなの表に出たら恥ずかしいからってね、そういうことさ。

だからって議会に、今の設計業者さんが提案したこともないみたいな、伏せる、僕らが聞かなかったことが悪いかもしれないけど、当然説明すべきでしょう。設計業者に触れてる質問してるんだから、頼めないのかって。

いや実はねって、こういう提案もあったんですけど、まだまだ時間足らずだったせいか、不格好でって。時間足らずだったっていう認識があるんだったら、もう一度ある程度時間をかけて、設計変更も考えてみようというのは普通の考え方じゃないんですか。

でも、そういった議論になるのは嫌だったのかもしれないっていうのが、もう今そういった疑問すらも浮かぶんですよ。なぜ嫌だったのか。だから、まず資料請求していろいろ考えましようって。これが事実の証言だったのかどうかを町の証拠で、残ってる文書の証拠で裏付けしましようって。それが常任委員会の。

○委員（赤井睦美君） リモート会議の結果の資料をもらうってこと。

○委員（三澤公雄君） だから、ここの間の全てって言うてるでしょ。何が隠されてるかわかんないんだから、こんなに齟齬があるから。

○委員（黒島竹満君） いいでしょ、だから資料請求すれば。

○委員（三澤公雄君） 資料請求すればって、委員長が決取らないからさ。ぼんやりした疑問をいつまでも僕は否定し続けないと、いつ流れが変わるかわかんないですよ。

○委員（黒島竹満君） そうやって言うんだから、徹底してやればいいんだって。

○委員（三澤公雄君） いや、だからやりましようって。まずみんな資料見ましようって。

○委員長（牧野 仁君） わかりました。

○委員（赤井睦美君） その資料のさっき言った1回目不落のときからかい。

○委員長（牧野 仁君） そうです。それを資料請求したいと思います。よろしいですか。

○委員（三澤公雄君） いいと思います。

○委員長（牧野 仁君） 反対の人いませんね。全員賛成ということで。

○委員（水野博美君） 結論がよくわからない。見て、何がしたいのかがよくわからない。

その違いをあれして、その設計業者さんをお願いするための調べなのか、齟齬を、その相違している部分をまた町長とかにお話して、設計業者さんは今もう進んでるから、そこを町長が悪かったって、違ってたって認めて納得できるものなのか、それとも設計業者さんにまたお願いしたいのか。

その結末がよくわからないんで、ただ調べるのは全然いいんですけど、調べてその結果がどうなるのかがあんまりよく見えない。

○委員（関口正博君） ちょっといいですか。

○委員長（牧野 仁君） 関口委員。

○委員（赤井睦美君） みんなで考えたほうがいい。

○委員（関口正博君） これをしっかりと調べる意味っていうのは、やっぱり1億9千万、これが今ドブに消えるかどうかのところだから、追及すべきことはやっぱり追求しなきゃならない。やっぱり曖昧にしちゃいけないですよ。

三澤さんが言ったとおり、16、19の全協においては、僕も副町長に確認したけれども、二本柳さんと接触してないと。意見を聞いてないっていうことを言ってたけど、先ほどの二本柳事務所さんではやっぱりそういうものも提案をしていたと。これはね、やっぱりこれから前に進めていく上でも非常に重要な部分ではあるかと思います。

今日の協議ではっきりしたことっていうのは、鉄骨の部分メインにお話していたけれども、どうしてもこうしても町長が、当然町内業者を使う、道内業者を使うっていう部分においては、もう金額に関しては小さくしたってそれなりにかかりますよっていうことでしかない。

それで、今日の新聞を皆さん見たかと思うけど、厚沢部の給食センター。あれは800㎡で12億。もちろん、用途が違うんで。だから、町が安くしたいがためにいろいろ模索するんだろうけども。いくら4,000㎡、2,000㎡小さくしたからって言って、掛かるコストっていうのは変わらないというか、むしろ高くなる一方でしょう。

さっき黒島議員もおっしゃってたけど、これからもっともっと物価高騰しますよ。置けば置くほど高くなりますよ。1円でも安く努力っていうのを町はしなきゃなんないのに、逆に作用する可能性も今ありますよっていうことが明らかになったと思うんだよね。だから、ゼロベースにこだわりすぎてるのが、俺は本当におかしいなと思って。ただ単にデザイン気に食わないだけだったんだろうなっていうふうには。

ただこれは個人の意見だから、そんなものは封印するけれども。無駄な工程を踏んで高いものを作ってしまうということになれば、1億9千万以上の損失になる可能性がありますよ。

だからこそ、短い時間だけれどもしっかりと調べなきゃ。原因究明はもう終わったんだけど、結果わかったことっていうのは、決して誰がどうこうというわけではなくて、なんて言ったらいいんだろうかね、4,000㎡で下手したら40億ということだって考えられるってことだよ。そこはちょっと覚悟しなきゃダメなのかな。

○委員長（牧野 仁君） あり得る話。俺もそう思ってる。

○委員（関口正博君） それで道内のいろいろな事例を見たって、これも委員会では喋ってるけど、北海道の価格ってやっぱり高い。赤井川の市役所だって30%の差で、これはきっと同じような原因だと思う。これ八雲だけの問題じゃない、二本柳さんの問題でもない。そこをしっかりと町は本当把握してるのかっていう部分の問題で、把握してたにも関わらずゼロベースにしてまた進むっていうことが町の損失になるのかなんないかっていうのは、やっぱりちゃんと議会としては追求しなきゃなんないんじゃないかな。

ただ、えらく短いから、期間が。3月定例の基本設計、実施設計の予算が出てきますよね。2週間しかない。でも、そこで何かつかむんだったらまたこれが伸びてって、今度これもまた議会としての追及されることになっちゃうので。

○委員長（牧野 仁君） 最悪のパターンを考えてね。

○委員（関口正博君） 議会としてはちょっと追い込まれたなっていう気を、逆にしてるけど。

○委員（三澤公雄君） 関口さんがそういう問題提起したから言うけど、最後のほうでさ、ZEBっていうのは、実はこういうふうにメリットあるんですよって言って、まだ工期はずれでも間に合うって言ったんだよね。

今ゼロベースで話が進んでるけど、議会がお金をかけないで町に損失を与えないでっていうものが、俺今まで考えたことなかったけどさ、今の現設計案まだ活用できるタイムリミットがまだあんのかって。もうないもんだと思ったけど、今の説明であるっていうことで理解していいの。みんなどういうこと。

○委員（関口正博君） ただ、それをやっちゃったら、またちょっと揉めるので。

○委員（三澤公雄君） それがお金がかからない、町民がね、将来不安があるつつってワーワー、デザインが云々ってことになったけども、デザイン性は別にしてさ、あれはおまけなんだからね。ひょっとしたらまだ間に合うということでも思っちゃっていいの。

○議長（大久保健一君） いや、委員長が最初に宣言したとおり、遡らないっていう話だったんだよ、今日。

○委員（三澤公雄君） もうそこは考えないのね。オッケー。

○委員（関口正博君） ゼロベースは受け入れるしかないという町長決断はやっぱり重いんで、それにのっかって町議我々も協議していかなきゃなんないんだけど、ただ出てくるものに対していろいろな覚悟はやっぱりしなきゃなんないよっていうことでもあるような気がするけどね。

○委員（三澤公雄君） もし間に合うんであれば、後ろにこないって前提だけでも、僕らはより高くなっちゃうことを覚悟の上で進んでいくっていう町の姿勢を正しながらね、そういうことを正しながら進ませていくのと、放置して進めていくのとはえらく違いますね。

○委員（関口正博君） ちがう、もちろん。

○委員（三澤公雄君） だからさ、ゼロベースってことで進んではいるんだけど、どうなの。だから、繰り返すけどね。今の二本柳さんの発言から言ったら、まだ現設計で建てるってことが可能なの。補助金の申請時期とか今いろんな償却の話とかしてるけどさ。

○委員（横田喜世志君） いい。

○委員長（牧野 仁君） はい、横田委員。

○委員（横田喜世志君） 例えばゼロベースで基本設計、実施設計を頼めますよっていう会社が新たにZEBを考えるとすると間に合わないっていう言い方だね。

もし万が一、二本柳さんが入札に参加して採用されれば間に合うかもしれないということだね。そういうことだよ。要は、二本柳さんが今まで手続きしてるから。

○委員（三澤公雄君） でもそれは、今の設計案に対しての手続きだべさ。

○委員（横田喜世志君） いやいや、ZEBはZEBだから、創エネのほうね。

○委員（三澤公雄君） こういう設備をして、この設備はこういうところにつけてっていうことも含めた上での、ZEBのあれだよ。

○委員（横田喜世志君） いやいや、そんなね、建物に対してここにこう付けるからっていう話じゃないんだよ。ZEBって。創エネの部分って。

要は、こういう発電設備を付けるから。

○委員（三澤公雄君） そして蓄電池も入れるから。

○委員長（牧野 仁君） そういう業者と3年前からやりとりしてるから、それで間に合うかもしれないってことを言ってます。新たにやるとなると間に合わないっていうのは。

○委員（横田喜世志君） 設計屋さんがそこを考えていかなきゃなくなるから、それでは間に合わなくなるよって話。

○委員長（牧野 仁君） 一年一年ってことね。

○副委員長（安藤辰行君） 省エネは一年一年で違うよ。

（何か言う声あり）

○副委員長（安藤辰行君） 申請し直さなきゃならない。

○委員（三澤公雄君） まだ年度内だからっていうことかもしれない。そういうことか。

○副委員長（安藤辰行君） 住宅だってみんなそうだよ。省エネの申請は一年一年だから、切れたらもう一回やり直す。

○委員（三澤公雄君） 申し込みからの365日なの。

○副委員長（安藤辰行君） その期間があるのさ。申し込んで、受理しないで伸び伸びになって、あ、ダメですねってくるんだから。でも、また次の年にやり直しさ。省エネはね。

○委員（関口正博君） コストばかりにとらわれすぎて、町長も最初の発言ちょっと期間慌ててしまったんですよ。あまりにもゼロベースっていうことにこだわりすぎて。だから、発言も町もどんどん変わってきてますよね。

（何か言う声あり）

○委員（関口正博君） ただ、原因は当然町でも押さえてますよっていうことであるなら、裏返せばやっぱりそういう高い金額で受け入れるということでもあるんだろうから。

○副委員長（安藤辰行君） ZEB だって補助金3億なっててさ。さげるのに3億4億、やめれば3億、補助申請すると3億も出てくるんだから。止めるも止めないもそこはゼロなわけ。だから、止めなくてもいい。下げる必要はないんだよね。説明でね。

○委員（関口正博君） 当初は町長も高气密の部分も安くするって発言しちゃったもんだから。ちょっとあまりにも稚拙にやりすぎたんだ、最初が。だから、どんどんまた発言変わっていったから。

○副委員長（安藤辰行君） ほとんど ZEB の部分は補助金で賄えるって説明だったからさ。それで2億も3億も追加で出すんだったらやめるかってなるけども。なんもそういう説明だったら止める必要ない。電気使えるだろうし

○委員（関口正博君） だから、俺は1億9千万にこだわりたいから、できれば設計変更でいってほしいなって思うんだ。思うけど、もう町長はゼロベースで行くって言っちゃってるわけだ。

それで、二本柳さんもしそういう意思があるんであれば本当そういうふうに向かってほしいなと心から思ってる。そしたら、いくらでも安く済むんだから。

（何か言う声あり）

○副委員長（安藤辰行君） そうだね。説明がな。頼まれれば受けるような感じだけだな。いや、聞いた話ではな。

- 委員（関口正博君） 間違いなく安くならない。
- 副委員長（安藤辰行君） 役場ではもうはなしちゃってるみたいだから。
- 委員（関口正博君） 安くならない。
- 委員（三澤公雄君） まあ、期間短縮だったり。
- 委員（赤井睦美君） 人件費も高いし。
- 委員（関口正博君） だから、もう何もかも面倒くさくてゼロベースって言ってんだべな
っていうふうにしかならない。本当そう思う。

（何か言う声あり）

- 委員長（牧野 仁君） 分かりやすい言葉だよ。
- 委員（関口正博君） こういうのはね。推測だから言っちゃならないんだけど。
- 委員（横田喜世志君） 今ね、創エネの部分で3億何千万がさ、かかるけど補助金がある。
かかるっていうか総額が膨らむんだよ。でも役場は、そこを総額増やしたくないから、結局
削っちゃうっしょ。その後は考えてないわけだよ。
- 副委員長（安藤辰行君） 補助金なくなるっけさ。
- 委員（横田喜世志君） なくなる。
- 副委員長（安藤辰行君） 補助金もらってでもやったらさ、ゼロだっけさ。
- 委員（横田喜世志君） そうそう。補助金もらえるのに。
- 議長（大久保建一君） だけど、常識的に考えて、なんだっけ Nearly ZEB が最高位だっ
け。その次が。
- 委員（横田喜世志君） 違う。
- 委員（関口正博君） ZEB があって、Nearly ZEB があって、ZEB Ready。
- 副委員長（安藤辰行君） そうそうそう。
- 議長（大久保建一君） それでさ、それをお金がかかるけども全額補助金で間に合うって
いうのが本当だとすれば、みんな ZEB やるよね。
- 副委員長（安藤辰行君） 本当なんだ。
- 議長（大久保建一君） いや、だけどそれを下げるってことは、やっぱり自己負担も発生
してるからなんじゃないかなと思うよ、俺は。
- 委員（赤井睦美君） 思う、絶対に。
- 議長（大久保建一君） だって、全額 100% 補助なんてありえないわけでしょ。
- 委員長（牧野 仁君） 3分の2しかない。
- 議長（大久保建一君） だから、そこら辺はちょっと理解した上で議論しないと。
- 委員（三澤公雄君） エネルギーにするやつだから、将来の電気費用の負担だとかを相殺
させていったら値があるっていう。
- 委員（関口正博君） 太陽光を使うために建物の性能も上げなきゃなんない。建物の性能
を上げるためには経営がお金かかる。だから、そこを受け入れられないから、なかなかそこ
まで行けないっていうこと。

前の町長は、それも全部やるって言った上で進めていってる。だから、ZEB に関わる部分
だけで数億円かかるっていうのはそういうこと。太陽光パネルだけじゃなくて、高気密高断
熱の部分もちゃんとやって、換気も全部変わってくるから。

相対的に見て高くなるからっていうこと。それを全部やれば何億だか安くなるんだよっというふうに言ったんだけど、ZEB のことについてああだこうだ言われるようになったから。

ただ、再生可能エネルギーは災害拠点として考えるのであれば、やっぱりやれるのであれば絶対やったほうがいいし。

○委員（赤井睦美君） やったほうがいい。やんなきゃ駄目だと思う。

○委員（関口正博君） それで、機密をちゃんと保つための建物にするのであれば、再生可能エネルギーの部分っていうのは補助金出てくるから、太陽光パネルの部分。そんなもん別にやったらいいんだから。気密を守るのであればね。建物の性能を守るのであれば。

○委員（横田喜世志君） ZEB Ready の話があるから、要は Nearly ZEB と省エネの部分は変わらないんだよね。仕様は。あと、そこに創エネして Nearly ZEB になるだけで創エネの部分として。

○委員（関口正博君） 25%のね。そこは太陽光再生可能エネルギーでやるんだけど。

○委員（横田喜世志君） これからさ、例えば2、3日前の道新にも出てたけど、ペロブスカイトで太陽パネルとかも出てくれば軽くて壁面にペタッてくっつけれる。

○委員（三澤公雄君） コマーシャル始まってるもんな。びっくりした。

○委員（横田喜世志君） だったらさ、もっと安く設置できるかもしれない。

○委員（関口正博君） 太陽光に関していろんな自治体は、これから先どんどん安くなってくるから今の段階で導入を控えるってところが多いんだよね。意外に。

だから、そういうことも、それで躊躇してるところも多いんだけど。

○委員（赤井睦美君） 時間的に考えて資料請求して、いつ出てくるんでしょうね。資料を請求してすぐ出てくるんなら対応できるけどさ。そこでね時間、今予算委員会とか大変だからさ、皆さんね。だから、そんな資料を請求したって。

○委員（三澤公雄君） 日にちなんて指定してある範囲だから。何も分けるもんじゃない。これは見せたくない、あれは見せてもいいとかってそんなんするから時間かかんのさ。わかりましたって出せば済むんだよ。何も心配するところない。出せって言うもの出せばいい。

○委員（水野博美君） 資料請求してって言うより、共有してっほうがいいんじゃない。どういうふうな建物にしてほしいとか、駄目なんですかね。

（何か言う声あり）

○委員長（牧野 仁君） もうそろそろ締めたいと思いますけれども。

皆さんからいろいろご意見出ましたけど、総括としていろいろ資料請求は求めたいというところでよろしいでしょうか。

（「はい」という声あり）

○委員長（牧野 仁君） これを見ながら、これからまた。

○委員（赤井睦美君） それ、いつやるの。定例会とか入っちゃったら全然。

○委員長（牧野 仁君） 早めにちょっと事務局に相談しながら。

○委員（赤井睦美君） 忙しそう。

○委員（三澤公雄君） 資料が出ちゃえば。

○委員長（牧野 仁君） それは、後日連絡しますんで、なるべく早めにやりたいと思っております。皆さん忙しいだろうから、3月定例会前にやったほうがいいかなと。

以上、これで今日の総務経済常任委員会を終わります。ご苦労様でした。

[閉会 14時18分]